

9月定例市議会報告

中村市長の所信表明



9月定例市議会が、9月12日から26日まで開かれました。はじめに、中村市長が市政に取り組む所信表明を行った後、平成24年度一般会計補正予算などが上程され、いずれも原案のとおり可決されました。

平成24年9月定例市議会が開

催されるにあたり、今後の市政運営について所信の一端を申し上げ、議員各位ならびに市民の皆様のご理解とご協力をお願いするものであります。

私は、このたびの市長選挙におきまして、市民の皆様をはじめ各方面からの力強いご支援と温かいご厚情を賜り、引き続き市政の重責を担わせていただくこととなりました。無投票での再選という結果は、これまで2期8年間の市政運営に一定の評価をいただいたのではないかと前向きに受け止めておりますが、これまで以上に、責任の重大さを痛感いたしているところでございます。

このうちは、さらなる市勢伸張と市民福祉の向上に向け、全身全霊を傾けて取り組んでまいり所存であります。

3期目の市政のスタートにあたり、基本的な考え方ははじめ、今後取り組むべき施策の概略に

ついて申し述べます。

私は、市長に就任以来一貫して申し上げておりますとおり、「公明正大」を不変の政治理念として、住民の心や思いに寄り添った公平公正できめ細かな市政運営に努め、「市民と共に築く風格あるまち」をめざすことを基本線として懸命に取り組んでいるところであります。

1期目におきましては、基本線に沿って「協働と改革」をキーワードに、市民参画の気風を創り上げていく「協働のまちづくり」と、まちづくりの基礎となる「自立持続可能な財政基盤の確立」にまい進いたしました。2期目におきましては、本市の将来都市像である「環日本海オアシス都市」実現のため、「連携と共栄」をキーワードに、周辺地域との連携強化による圏域全体での一体的な発展を模索してまいりました。

市民ならびに市議会のご協力もあって、幸いにも財政状況の

改善、協働のまちづくりの進展、夕日ヶ丘団地の市街化促進、環日本海定期貨客船の就航、中海市長会の発足とさらなる拡大など、1期目、2期目の取り組みが着実に進展をし、その成果を見ますと私が目指してきた市政の方向性は、間違っていないかと確信しているところであります。

今後の4年間におきましては、これまでの2期8年間の取り組みをさらに大きく花開かせ結実の時期にしたいと考えておりますので、引き続き「連携と共栄」、「協働と改革」の考え方を踏まえ、同様な方針で取り組んでまいりたいと考えております。

具体的には、選挙の際に5つの重点施策を掲げておりますので、これに沿って取り組んでまいりたいと考えております。それは、

1. 連携強化による一体的発展
2. 全国ブランドである「さかな」と「鬼太郎」を生かした経済振興
3. 一人ひとりを大切にした教育と福祉の充実
4. 安心で住みよい生活基盤の充実
5. 市民との協働による誠実な行政運営

であります。

連携強化による一体的発展

従来の中海市長会を発展的に解消し、本年度から出雲市と鳥取県西部の町村を加え、中海・宍道湖・大山圏域市長会を発足したところでありますが、この新たな枠組みによる圏域は、日本海側でも有数の人口、経済規模を有しており、「北東アジアに向けた西日本のゲートウェイ」になり得るものと考えております。

そのような中で、本市の有する「境港」と「米子鬼太郎空港」という経済振興上非常に重要な鍵となる社会基盤を、この圏域の共有財産とし連携して最大限に活用することによって、一体的な発展に繋げていくことが最も重要な事柄であると考えております。



そのためにも「境港」においては、環日本海定期貨客船の利用促進に加えて、各種岸壁の整備促進、日本海側拠点港として国際フェリー・国際RORO船機能等の追加選定、さらには物流強化のため、米子インターチェンジから「境港」に向けた高速道路の整備など、一層の機能強化が図られるよう努めてまいります。

また、この中海・宍道湖・大山圏域は、多様な観光資源や豊かな自然環境に恵まれており、市長会では、主に観光・産業・環境の三分野を中心に、この圏域の特色や魅力を生かした連携事業を実施していくこととしております。

- このほか、
- ◇米子鬼太郎空港の利用促進
- ◇貿易振興組織の強化・拡大
- ◇市民レベルの国際交流の促進などに力を注いでまいりたいと考えております。

全国ブランドである「さかな」と「鬼太郎」を生かした経済振興

水揚げ日本一を誇るカニや生マグロなどの水産物や、年間300万人を超える入り込み客のある水木しげるロードに代表される本市の地域資源を効果的に

組み合わせ、「さかなと鬼太郎のまち」ならではのイベントなどを通して、引き続き本市の魅力を積極的に情報発信してまいります。



水木しげるロードの累計入り込み客数が2000万人を突破

さらなる認知度アップの取り組みとともに、本市の観光戦略である観光振興プランの推進により、観光地としての一層の発展に努めてまいります。

基幹産業である水産業においては、鳥取県が水産関係者や行政をメンバーとする、さかいみなと漁港・市場活性化協議会を立ち上げ、その中で今後の漁港のあり方や市場機能の強化などについて、幅広く議論を重ね、振興ビジョンの策定に取り組みしております。

水産業の振興は、本市経済の活性化に非常に大きな影響を及ぼすものであり、この振興ビ

ジョンの策定・推進にできる限りの協力をしてまいります。

また、境港水産加工汚水処理場につきましては、老朽化が進んでいる管渠等の改修に取り組み、水産加工業のさらなる振興と市場背後地の機能強化に努めてまいります。

さらに、農業では、農家の育成や白ネギ産地の維持・拡大による農業振興に努めながら、伝統的地域資源である伯州綿の復興にも取り組んでまいります。水産と観光の相乗効果をさまざまな産業に波及させることにより、地域経済の振興を図ってまいります。

- このほか、
- ◇水木しげるロード周辺の環境整備
- ◇企業誘致と雇用の創出などに力を注いでまいりたいと考えております。



収穫時期を迎えた伯州綿

一人ひとりを大切にし、た教育と福祉の充実

「心豊かで、たくましい子ども」「夢や希望を持ち、よりよく生きようとする子ども」を、引き続き本市のめざす子ども像とし、「生きる力」を育む教育に努めるとともに、家庭・地域が一体となって「子どもたちを見守り、育てる」意識を醸成してまいります。

特に少人数学級の実施や指導補助員の配置など、一人ひとりと向き合ったきめの細かい指導を引き続き行うとともに、防災機能を備えた第二中学校の建設や小中学校給食に対応する給食センターの新設など、次代を担う子どもたちの教育環境の整備を進めてまいります。

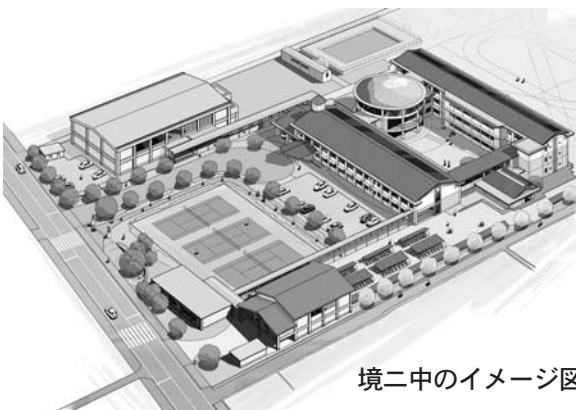
また、「心豊かな人と文化の育成」に向け、読書活動の推進や公民館活動の充実などを図り、生涯学習の推進や文化振興にも努めてまいります。

これまでも重点的に取り組んでまいりました子育て支援につきましましては、引き続き積極的に取り組み、教育環境を含め、母子保健、生活環境、雇用環境、安全の確保など、多岐にわたる子育て支援を全庁的な体制で総合的に進め、「子育てするなら

境港」と思っていたいただけるまちをめざします。

特に、子育て家庭における経済的負担のさらなる軽減を検討するほか、より身近な地域の中での子育て環境づくりに努め、市民一人ひとりが意識的、意欲的に子育て支援に参加することで地域の子育て機能を高め、社会全体で子育て支援の輪を拡げてまいります。

また、高齢者や障がいのある人などを市民みんなで支え合う近隣住民支援体制の構築、介護や地域医療体制の維持向上など、住み慣れた地域で健康で安心して暮らせるまちづくりを進めます。



境二中のイメージ図